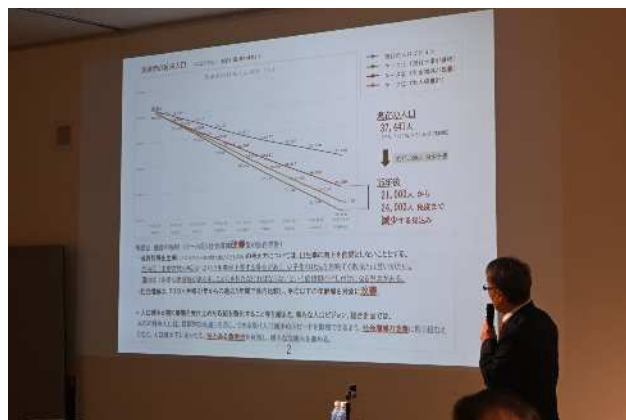


令和7年度 市長のタウンミーティング実施報告書

開催日	会場名	対象地区	参加者数 (人)	YouTube 視聴者数(最高 時点)(人)	YouTube チャット意見 数(件)
10月20日(月)	新川文化ホール 展示ホール	松倉、下中島、上中島	42	22	1

市側出席者 市長、企画部長、企画部次長、情報広報課長、その他関係職員

※対象地区は便宜上分けましたが、いずれの会場にも参加可能としました。



Ⅰ 市長講話

市長 村椿 晃 「魚津市第5次総合計画について」
「富山地方鉄道のあり方の検討状況について」
(45分程度 資料に基づき講話※各会場共通)

2 事前質問(地区から事前にいただいた提言・提案等について)

〈下中島地域振興会〉

(1) 次期区長のなり手及び区の再編成について

住吉6区では、高齢化と空屋が増え、次期区長の該当者がいません。区の編成をした方がよいのではと考えます。また、市営住宅の跡地の計画によっては、区の体制を整える必要があるのではないのでしょうか。

(村椿市長)

他の地区においても、同様の悩みといいますか、問題を持った地域があります。やはり高齢化していく中で、地域の役員のみなり手がいない、会長さんがいくつもの役職を兼任したり、会長さんの奥様が役員を兼任したりしておられる、というお話を伺っております。どこも共通していく問題だろうと思います。

このような状況を改善又は緩和する方策の1つとして、まさに地域の再編とありますが、自治会の合併も1つの手段であると考えます。県内の他市でも、そういった実例があります。全国的にもそういった事例が結構あります。近隣の地区と合併をすることで、

要は、関わっていける人口、人を増やす。その中で対応を考えていくということです。

市では、地域の皆様方の一助としていただけるように、「自治会合併の手引き」といったものを作成し、できるだけ早い段階で各自治会にお示しできないかと考えております。この手引きでは、自治会合併のメリットだけでなく、合併を進めるうえで生じるであろう課題、合併協議や説明会の手順、自治会総会の流れなど、想定される手続きの参考となるような内容としたいと考えています。

市営住宅跡地の利活用のお話もあろうかと思いますが、市といたしましては、それに限らず、今後の自治会のあり方を地域の皆さままでお考えいただく後押しができるように、できる限りの助言を行ってまいりたいと考えております。

(2) 住吉市営住宅の跡地はどのようなになっていくのでしょうか。今後の計画を伺いたい。

(村椿市長)

住吉市営住宅の跡地問題についてですが、住吉6区の人口について調べたところ、10年前と今と比較をすると、かなり人口が減っています。世帯数が、10年前が42世帯ありましたが、今は22世帯。人口が、10年前が74人いらっしゃったのですが、今は48人です。4割ぐらいの世帯数と人口が減っているということになります。それに伴って、高齢化もあわせて進んでいますので、そういった意味で、一つ目の問題が非常に顕在化しておられます。このエリアの中の住吉市営住宅につきましては、老朽化が著しく耐震基準も満たしていなかったことから、市営住宅としての用途を廃止することになりました。令和3年度から順次解体を開始し、令和6年度に全ての棟の解体を終えたところです。

この跡地につきましては、具体的な計画は、今はまだありません。今後の利活用を見据え、まずは境界や面積を確定するための測量を行うこととしております。

この跡地への進入路が袋小路であり、防災面や利便性といった面で課題があるものと考えておりますことから、これも併せまして、地域の活性化につながるような跡地の利活用について検討を進めてまいります。

3 意見交換（参加者からの提言・提案等について）

(1) 魚津市企業誘致推進協議会について

市長講話の総合計画のお話の中で、緩和と適応という非常に現実的な言葉をお聞きしました。人口減少に絡んでのお話でした。私の認識では、当然、緩和というのは、間違っても経済の縮小均衡と認識してはいけないと思います。現実的な結果としての緩和で、（人口減少を）止めるには、やはり産業経済の成長戦略が一番大切だと思っております。

そんな中で、企業誘致のお話がありました。7月か8月に魚津市企業誘致推進協議会が発足したということでお聞きします。これは、おそらくまだ入口だと思います。今までこういう取り組みは、もう何十年なかったと思いますが、まず現況とスケジュール感

について、どのぐらいのスパンで、一時的にどういう着地を求めておられるのか、魚津という地域の産業経済の再生エンジンは根本的に幾つもあるので、市長は、何が一番の成長エンジンだと考えておられるか。大局的な見解をお伺いします。

(村椿市長)

ご意見をいただきました企業立地推進協議会については、確かに今始まったばかりです。実は、5年ぐらい前に市内全域を対象にして、企業適地の調査を実施しました。その中で20数か所、可能性のありそうな土地を把握しました。その時は、それで終わってしまいましたが、その場所について、例えばこの場所には、こういったような業種の企業がふさわしい、望ましい、ということイメージしていきたいと思っております。理由は、年に1、2回ですが、東京や大阪で県が主催する企業立地のセミナーをやっております。市長になったばかりの頃、それに行っておりました。2、3年続けて行きましたが、その時に、企業の方が、魚津市のブースに来て、すぐ工場を建てられる土地はあるかと聞かれるのです。その時には、全然用意していなかったもので、すぐには無理だと、どれぐらいの規模が必要か教えていただいて、また調査をすると、そんなような返事をしていました。そうすると、なかなか実現しない。それから、立地セミナー以外でも、県の企業誘致担当から、こういった案件があるが土地を用意できますか、という問合せが年間数件あります。そういうものに応えてまいりたいと思い、企業誘致の推進協議会を立ち上げて、取組をスタートしました。

まずは、今年度から来年度にかけてですが、我々が把握している土地の中で、何か所かは、こういう規模で、こういう、その土地がある場所であれば、例えば、住宅地が近いとか、あまり近くないとか、川があるとかないとかのいろいろな条件により、そういったようなところにはこういった企業、業種なり分野の企業は可能性が高いと、そのようなことをイメージして、先ほど申しました立地セミナー、或いは県からの問い合わせにすぐ対応できるようにしていこうというのが、進め方のイメージです。

それから、再生キーとなるエンジンとなるものは何かってということですが、これは正直に申しますと、具体的にはイメージしにくいです。これからの時代は、先ほどDXの話をしていましたが、デジタル技術関係のものは、伸びていくと思っております。そうすると、デジタル関連分野の技術を生かした企業ですとか、そういったようなものは必要になってきますので、そういう部分が1つの狙いかとは思いますが、あともう1つはやはり、女性に残ってもらいたい思いがあります。若い女性が、働いてもいいなと思う分野って何だろう、といつも考えます。デザインだとかファッションだとか、考えられそうなものもありますが、この辺については幅広く考えていきたいという思いがあります。

(2) 教育都市について

市のホームページの「市長の部屋」にこのような、記述がありました。「観光都市魚津を目指すとともに三太郎を排出した都市に恥じない教育都市を目標とする。」市長が考えておられる、教育都市とは具体的にどういうふうなものなのかを教えていただければ幸いです。

(村椿市長)

教育都市を目標とすると書いてある理由ですが、なぜかというとは魚津市の小学校の統合がかなり急速に進んだということが背景にあります。

小学校が統合され、先生の数が減って、統合してお終いでは、せっかく統合するエネルギーをかけたのに、その意味があまりないのではと思いました。せっかく統合していくのであれば、教育の中身といいますか内容を特色のあるものにしていくべきだと考えました。

その当時、というか今もですが、最初に入れたのは、英語教育を小学校の早い段階から取り入れようと思い、それをスタートさせました。今ではもう他の自治体でも英語教育が進んできておりますが、小学校1年生から、英語教育を入れていくということを当時イメージし、そのように書いた記憶があります。

それからもう一つはふるさと教育のお話があります。今、星の杜小学校の中には、先人ミュージアムということで、魚津の三太郎もそうですし、YKKの創業者の吉田忠裕氏の話もありますが、根っこといいますか、自分が生まれ育った魚津市がどのような人を排出してきたというか、どういう人物を生み出したような場所だということを知ってほしいという思いがあったからです。それで、星の杜小学校を整備するときに、先人ミュージアムを入れました。

自分の根っこをしっかり持つということと、国際的にも今度対応していけるような人材を育てていくための英語教育を早い段階から入れていこうということをイメージして、教育都市魚津を目指そうと書かせてもらいました。成果をこうだよとは、なかなか示すことはできないものですが、そういう思いで書いたということでもあります。

(3) 歴史と特異な取り組みが魅力の水族館の建替計画について

(村椿市長)

魚津水族館の建替計画については、現時点でいつまでに、いつごろ、どのくらいのもので建て替えるという計画は、まだありません。

今取り組んでおりますのは、魚津水族館は、富山県唯一の水族館で、しかも日本一古い歴史があるという水族館ですが、将来残していくときに、どんな水族館として残していくべきなのかというところを、今、検討している段階になります。

それで、その検討と併せて、実際に取り組んでいるのは、子供さんだけでなく、大人も訪れてもらえるような水族館についてです。そのための取り組みを、これは考えただけじゃなくて、実行していこうということで、まずは今の水族館でも、大人に来てもらえるような取組をやろうということを今、水族館で取組んでおります。ちょうど富山県が「寿司といえば、富山」ということで、その寿司をテーマにした取組を強力に進めておりますので、これとタイアップするような形で、「寿司ネタを見るなら、魚津水族館」というキャッチコピーを使い、実際に入館者が少し増加傾向にあるという状況にあります。

そういったことを進めながら、新しい水族館っていうのも、子供さんだけでなく、いろんな年代の人が来てもらえる、水族館で富山湾に面した魚津にあるからこそ、意味があるそういった水族館を目指し、建替については検討していこうということにしております。

(4) 免疫力の重要性について

コロナ禍では、ワクチンや薬剤に変える施策が目立ちました。免疫力を高めるための健康情報とか呼びかけというものが、少なくともは動いていないと感じております。

健康センターや国からの発信も限られていると思います。例えばイベルメクチンのような治療薬が、その効果を報告する声もある一方で、それが市場から姿を消すといった事象もありました。情報や選択が制限されている印象を受けておりました。

ワクチンについても、今やもう副作用のリスクや、効果の限界が明らかになる中で、私はやっぱり免疫力を、最優先に考えるべきではないかと強い思いがあります。

国の指針や、健康センターの方針に縛られず、市長ご自身のお考えをお聞かせください。市民の健康を守るため、地方自治体としてどのような役割を果たせる果たすことができるかと考えてしょうか。そのあたりをお伺いできればと思います。

(村椿市長)

専門的な内容は、なかなか把握していないので、そこはお許しをいただきたいと思います。免疫は大事だと思います。免疫力を高めるための、方策ですが一体どんなものが、どういうことがいいのか、ということですが、シルバースポーツ大会などで皆様にお話するのですが、健康の源は、しっかり栄養をとること、それから運動をすること、睡眠をとること、そして、人と、交流をする、かかわること、この4つが、健康の、個人にとって重要だと思います。ですから、そういった行為、シルバースポーツ大会ですとか、いろんな集いの場がありますが、そういったところも大切にして、健康維持に努めてくださいと申しております。

免疫力というのは、一定のものでなく、今言ったような要素が、何かがぐっと落ちたりしたときに、バランスが崩れて免疫力が低下するのではないかと考えております。魚津市とすれば、健康を維持するための、栄養面の話であったり運動であったり、或いは交流であったり、こういったようなものを応援するために、ミラたんの健康ポイントの取組ですとか、本当に地道なものでありますけれど、そういったことは、取り組んでおります。しっかりと自分の健康を守るための免疫力をつけていくためにも、そういうことをしっかりやりましょうということを、行政としても、アピールしていくということが重要だと思います。これからも、行政の姿勢が伝わるような方法をやってまいりたいと考えております。

ダイレクトに支援していくのは難しいですが、まずはそういった呼びかけをしっかりとやってまいりたいと思います。